

鳥居のなぞ

八日市場を歩く

「夏祭り」の季節がやってきました。「祇園祭」はそれを代表するものと言えるでしょう。祇園信仰は、疫病や災難を払う威力を持つとされる牛頭天王やスサノオノミコトに無病息災などを祈願するもので、京都の八坂神社から全国に広まったとされています。

八日市場の八重垣神社は明

治の初めまでは、「天王宮」や「天王様」と呼ばれていました。古いものでは、1606年に神輿が新調されたとありますが、1670年2月の見徳寺門前の大火で神社とともに神輿も焼失したようです。夏祭りを控え「町中惣氏子」により6月に神輿を造ったとの記録があります。

1923年から現在のよう
な10町内による連合渡御が行
われるようになりました。明
治後期に一度、8月1、2日
とした後も幾度かの変更や太
平洋戦争中の中断を経て、戦
後昭和21年に復活しました。
1840年2月に八日市場
村約400戸のうち300戸
が焼失した大火がありました。
午後8時ごろに田町坂上で出
火し、田町坂下から本町、横
町、見徳寺門前中ほどまで類
焼し、見徳寺と神社も焼失し
ました。

祇園祭については、

「祇園会は1696
年のころなり」と書
かれたものがあり、
1761年の祭りの
様子が「6月18日の
夕方、旅所に神輿を
安置し、19日朝、お
はらいを済ませたあ
と町内を渡御し、20
日も前日同様に渡御
したあと神輿を旅所
に返して、本殿で儀
式を行った」と書か
れていて、6月18日
から20日まで3日間
かけて行われたこと
が知られます。

謎を残す八重垣神社正面の鳥居



八重垣神社境内入口に石
の鳥居が立っています。少
し見にくいのですが、正面
に「正徳元年六月廿日 八日
市場 菊岡玄蕃」と刻まれ、
1711年の祭り最終日の6
月20日に寄進されたことが知
られますが、この人物につい
ては不明です。さらなる謎は、
この鳥居が大火にあったもの
の焼け残ったものか、あるいは
火災後に再建されたものか
という問題です。造立から
300年を経てきた鳥居のみ
が知る謎と言えるでしょう。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080